新連載！ オルガニストの〇〇

©Mari Kusakari

大木 麻理

第1回

オルガニストの持ち物

こんにちは、ホールオルガニストの大木麻理です。

このたび「オルガニストの〇〇」を連載させていただくことになりました。オルガニストにまつわる、あんなことやこんなことをたくさんお伝えできましたら幸いです！

さて記念すべき第1回は「オルガニストの持ち物」について。

私たちオルガニストは基本的にマイ楽器を持ち運ぶことはなく、楽器があるところに足を運び練習やコンサートをします。自分の楽器を持って颯爽と歩く音楽家を見ると羨ましいな……と思うことがないわけではありませんが、身軽に行動できることは、特に演奏後などの疲れた体にはありがたいものです。

ではそんなオルガニストが常に持ち歩いているものとは……

❶「楽譜」

これはもはや説明が必要ありませんね。ただ、オルガンの楽譜はサイズが特殊な場合が多く、なかなかしっくりと収まるカバンがないのが難点です。

❷「オルガンシューズ」

オルガニストは手鍵盤のみならず、つま先・かかとを使って足鍵盤を演奏します。その際にしっかりと鍵盤に力を加えられるように、絶妙な高さと幅広さを持った靴が必要となります。現在使用しているのは、ドイツ留学時代に韓国人の友人に紹介された韓国製のもの。今のところ一番のお気に入りで、家には3足のストックがあります。

❸「ふせん」

オルガンの演奏時に音色を変えるため、〝ストップ〟と呼ばれるスイッチのON―OFFをします。その指示をアシスタントに伝えるために使うのが、この「ふせん」です。指示内容によって色を変えたりするので、何色かを使い分けています。

❹「レコーダー」

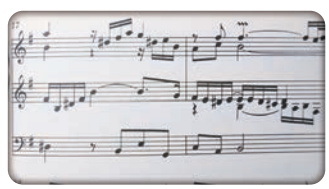
例えばミューザのオルガンは5248本のパイプを有しており、舞台正面の巨大な空間に所狭しと大小様々なパイプが収められています。オルガニストの演奏する場所では、自分の近くにある一部のパイプの音はしっかりと聴くことができますが、遠くにあるパイプの音は、離れた場所まで行かないとバランス良く聴くことができません。そのため客席にレコーダーを置き、お客様の耳に聞こえる音色を録音してそれを確認することで、初めてオルガン全体がどのように鳴っているのかを確認します。演奏台で弾いて、録音して、確認して、修正して……（その繰り返し！）とオルガニストのリハーサルには実は膨大な時間がかかるのです。

以上がオルガニストにとっての「7つ道具」ならぬ「4つ道具」と言えるかもしれません。

というわけで「オルガニストの〇〇」、次回もお楽しみに！

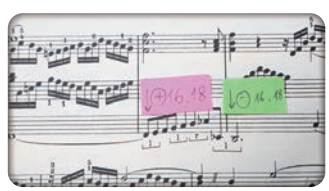
楽譜。今日持っている楽譜はバッハ、メンデルスゾーン、カミンスキーの3冊でした。

オルガンシューズ。これは2年ほど履いているもの。使えば使うほど足に馴染むので、実はボロボロになる頃が一番弾き心地が良いのです。


オルガンの楽譜は基本的に3段です。一番下が足鍵盤のパートです。

10年以上前に購入したレコーダー。未だに現役です!!

ふせん。現在使用しているのは全面が粘着タイプのもの。ストックもたくさんあります。


アシスタントへの指示を書いたふせんです。